

大型クラゲ分布調査

(大型クラゲ出現調査及び情報提供事業)

谷口祐介

1. 大型クラゲ沖合域分布調査

(1) 調査方法

令和2年8月17日～18日に、調査船「島根丸」によりLCネット(網口の幅×高さが10m×10m)を用いた調査を行った。また、船橋上両舷から目視調査を行った。

調査定点は図1のとおりで、LCネットを水深50mまで沈め、1分間斜め曳きを行った後、巻き上げ速度毎秒0.3mで揚網した。

(2) 結果

S3で3個体(傘径70～120cm)、S6で2個体(傘径34cm、60cm)を採集した(付表1)。

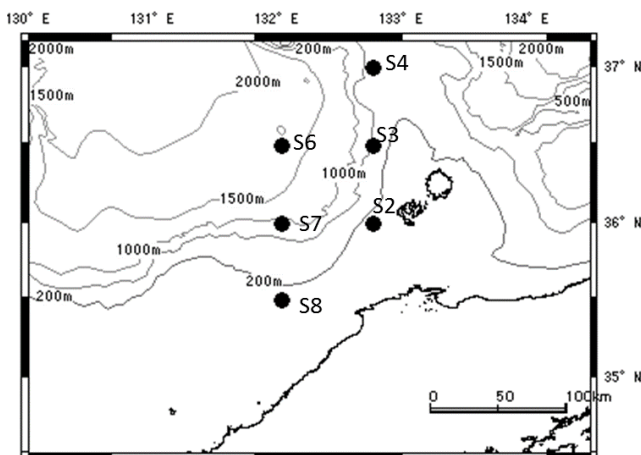


図1 洋上分布調査定点

2. 洋上目視調査

(1) 調査方法

7月21日～22日に調査船「島根丸」で船上から目視による調査を実施した。調査定点は図2のとおりで、2マイルの距離を航走する間、船橋上両舷から目視されたエチゼンクラゲを大(傘径100cm以上)、中(傘径50～100cm未満)および小(傘径50cm未満)のサイズ別に計数した。

また、7月～10月に漁業取締船「せいふう」により航行中にクラゲ来遊状況の目視調査を行った。

(2) 結果

調査船「島根丸」による調査では、全ての定点で大型クラゲを確認できなかった。漁業取締船

「せいふう」による調査では、8月中旬から9月下旬にかけて合計32個体の大型クラゲを確認した。8月下旬が最も多く、20日には7個体(小サイズ2個体、中サイズ5個体)、25日には9個体(中サイズ7個体、大サイズ2個体)の大型クラゲを確認した(付表2)。

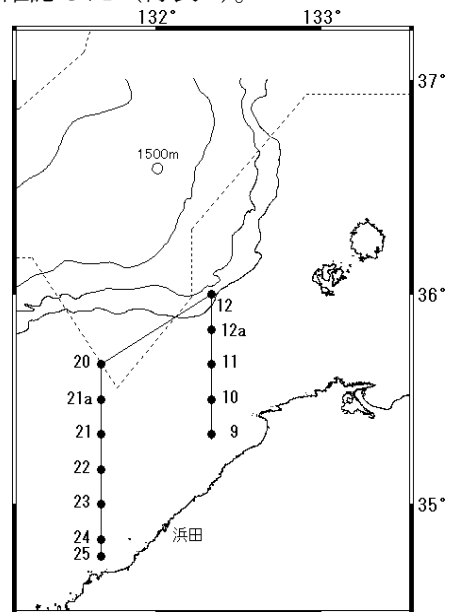


図2 島根丸洋上目視調査定点

3. 陸上調査

(1) 調査方法

7月～9月の間、漁業協同組合JFしまね各支所から電話による情報収集を行った。

(2) 結果

7月～9月において、主に隠岐諸島周辺海域の定置網で1日1ヶ統当たり数十～数百個以上の大型クラゲの入網があり、9月中旬頃から終息傾向となった(付表3)。

4. 研究成果

調査結果はJAFICに提供し、大型クラゲ出現情報として活用された。また、当所ホームページや関係漁業者へのFAX送信により大型クラゲの出現状況等を情報提供した。